

都市拠点公共施設整備に関する市民広聴会 開催結果（概要版）

1 開催概要

10月19日から25日の間、町毎に市内6会場で市民広聴会を開催し、のべ169人の参加者から様々なご意見をいただいた。

（1）実施内容

整備事業の概要、議会審議結果等についての説明
質疑応答、意見聴取

（2）会場別内訳

会場		開催日時	参加人数
丹後会場	丹後庁舎2階204会議室	10月19日(日)10:00～11:30	12人
弥栄会場	弥栄庁舎3階大会議室	10月19日(日)14:00～15:30	14人
久美浜会場	久美浜庁舎2階大会議室	10月23日(木)19:00～20:30	48人
大宮会場	アグリセンター大宮1階視聴覚室	10月24日(金)19:00～20:30	30人
網野会場	アミティ丹後2階研修室	10月25日(土)9:30～11:00	26人
峰山会場	峰山地域公民館1階大会議室	10月25日(土)14:30～16:00	39人

2 主な意見内容

整備事業や施設機能の必要性に賛同し早期整備を求めらるご意見や、人口減少対策としての先行投資であるといったご意見があった一方で、将来的な財政負担に対する不安や、他事業との優先順位、地域間格差の拡大や一極集中に繋がらうという懸念、アクセスの問題、身近な場所での整備や既存施設を活用した施設整備等も検討すべきといった、事業の見直しを求めらるご意見も多くいただいた。

※各会場での発言内容、意見書（紙、WEB）、市HP意見フォームから主な意見を抜粋

<意見抜粋>

（1）施設整備の必要性、機能等に係る意見

ア 複合施設・拠点施設整備の意義

- 図書館は、昔のように静かに本を読む場所というだけではなく、文化度、郷土の誇りといったものを全て培う場所だと思らるので、これだけ自然豊かな京丹後のなかで、ちゃんとコアになる部分を身に着けていくうえで一番重要な場所だと思らている。
- 子育てだけの施設を1つそこにつくるのではなく、多様な人が行きかう場所をつくらということがこれからの京丹後市の発展においては重要だと思らう。
- 子育てや図書館だけではなく、盲導犬を連れた方や障害のある方、高齢者など、色々な人が気楽にいける場所が今必要だと思らう。福祉の分野からも幅広く考えていただきたい。

- 子育ての現場では、病児保育の必要性に関する声がある。そのようなことを施設に入れられたり、図書館を広々ととって災害時に拠点となるようにしたりなど、付加価値についての考え方がもう少しあればよい。それだけ事業費がかかるならもっと他に利便性を高められるようにこうしようというような方向の検討もあっていいのではないかと思う。
- 計画施設は、市のシンボリックなものになり、未来へ発信していく拠点施設である。市がまちづくりの姿勢を示すことで、民間が入ってくることにつながる。まちは、民間が自然発生的につくっていくものであり、我々がつくっていくものである。そこがあるから人が集まる、そういったものをつくっていかなければならない。

イ 人口減少対策としての将来への投資

- クリーンセンターは必ずしなければならない整備事業であり、これは「守る」事業だが、都市拠点公共施設の整備事業は「攻める」事業。「攻める」事業とは、市がどう人口を維持していくのか 子どもを産み育て、安心して生活していけるまちにしていけるための事業であり、「攻め」の施設をつくらないからといって「守り」の施設にお金を振るというものではない。
- 少子化の中、集落には子供が1~3人しかいない集落もあり、親同士の交流もできなく孤立していく状況もあり、また移住してきた人も交流や相談のできる施設は必要だと思う。
- 50億は使いすぎでそこまで望んでいない。人口減少対策についても、2人目、3人目を産みやすくする助成金や無償化があればよいと思う。
- 人口対策の一番の問題は大学卒業者にあう働き場所や、ある程度の収入のある安定した働き場所があることだと思う。公共施設があれば人口が増えると思えない。

ウ 子育て世代のニーズ

- 宮津市の「にっこりあ」や豊岡の「ワックトヨオカ」を利用することが多い。暑いときや雨のときに遊ばせるスペースがあると、すごく利用しやすいので、是非整備してほしい。
- 京丹後市には屋内の遊び場が無い。建設することには賛成しているが、整備するにしても時間がかかり、その間は屋内施設が無いので、既存施設を利用するなどの代替案は並行して検討できないか。
- 新しい施設を建ててほしいというのではなく、土日祝でも、雨の日でも、兄弟一緒に過ごせるところが欲しいというのが子育て世代の意見。時間的にも経済的にも余裕がない中で、子どもを育てようという気持ちを持ちにくいというような状況もある。
- 新しい建物を建てるよりも、保育園の環境改善や病児保育の充実、子育て支援センターなどの既存の施設の充実などの、毎日使える支援、身近な場所で安心して使える環境を望んでいる。

(2) 財政的な持続可能性と優先順位に係る意見

ア 高額な整備事業費・維持費に対する将来的な財政負担への懸念

- 高齢化が進み人口が減少する見通しの中で、年間1億円、2億円の維持費を捻出しながら、今は財政は健全かもしれないが、将来を考えた時に何が起こるかわからない中で非常に不安。

それだけの予算があれば、地域の要望や学校の空調などの環境改善に充てられないのか。

- 聖域なき歳出削減をもって財源にあてるという答弁があるが、他のコミュニティの予算等を削ってまで建てるということだと思うが、そこをもう少し考えて欲しい。その地域に見合った体力のなかで事業を行っていかないと、将来に禍根を残す事業にならないか。
- 設備の老朽化、維持管理にかかるお金がとてもし上がってくると思う。色々な老朽化している建物の設備をこれから見ていくのに、この新しい施設をつくと維持管理にお金がかかると思うので、そこが心配になっている。

イ 他事業との優先順位付け

- 財政に余裕があるのなら、住民が切に要望することに、子どもたちの命や健康を守ることに税を使ってほしい。
- 政策の趣旨はよくわかるが、財源の問題である。優先順位というが、地区要望、小学校の体育館の空調を後回しにしている。安全・安心の方が大事なのではないか。1/50の予算があれば、地区要望がすべてできるのではないのか。なぜ、複合施設整備の優先順位が一番高いのか。

(3) 都市拠点への集中、代替案の検討に係る意見

ア 地域間格差の拡大、一極集中への懸念

- ふるさとを守るために6町合併したが、一極集中になりすぎている。
- 東京都と同じようなまちづくりをやろうとしているが、端々の丹後町などは人口が減少している。そのまま減っていくと、間もなく無くなってしまう。峰山の方にバスで行こうと思うと往復400円かかるし、時間もかかって1日つぶれる。そのような状態では図書館もいけない。中央集権化的なまちづくりは反対。
- 地域拠点と都市拠点の機能的接続について、地域拠点にこういう機能があって、都市拠点の機能によってさらにこの機能が強化される、さらに住民の暮らしが豊かになっていくというビジョンが明確に見えてくると、都市拠点の必要性がさらに見えてくる。都市拠点ありきで地域拠点のイメージが見えてこないことで、都市拠点は本当に必要なのかという意見になってしまう。

イ 身近な場所での整備、既存施設の活用

- 子育て施設は、小規模多機能のほうが効果があるのではないのかと思う。車で20分～30分かけて行くのではなく、近所にあるのが重要ではないのか。公民館や会館が貸出で埋まっているところはないと思う。今ある建物をつかって今でもできる。
- 施設を新たに作るだけではないと思う。既存の空き施設を使った場合はどうなのか、比較検討してやるものではないか。
- 雨の日に遊べる場所がないのは事実で、峰山にできれば行くとは思いますが、今、これだけの予算を使ってまでこの場所が必要なのかと言われればそうではなく、既存の今あるところで、近くにあって、公園のように気軽にいける場所を求めていると思う。

- とりあえずすぐに施設整備をとる意見もある中で、京丹後市内では小学校の統廃合も進み、空いた校舎や保育園等の空き施設、老朽化している施設があると思うが、そういうところを拠点にするとか、その施設を解体して新しい施設を持っていくといった考えはないのか。
- 廃校を利用するという案について、建物の耐用年数を考えると、そこにお金をかけて恒久的に利用していこうとするのは最終的には無駄になる。全て直さなければならない。

(4) 立地、アクセスに係る意見

ア 商業機能集積エリアに整備する意義

- 京丹後市は子どもが3人、4人という人も多く、多世代同居もあるので、子ども達が遊べて、お昼ご飯も済ませられて、買い物もできる。そういったことを1か所で済ませることができるといふことを考えると、商業機能に近い中心地に複合的に施設を建てるというのはいかぬかと思う。
- 都市拠点エリアにこの施設は建てていただきたい。廃校になった小学校のような今ある施設を拡張するというような形では絶対にだめで、子どもや若者だけでなく、高齢者も含めてみんなが集まれる、そして、買い物のついでにちょっと寄っていこうかと思えるような地域に建てていただきたい。

イ 車の運転が困難な方にとってのアクセシビリティ

- いかに市民が使いやすいかということが大切。中高生のことを考えた時に、峰山駅の周辺の方が使いやすいのではないかと。市域が広いので、バスの結節点も含めて場所を慎重に選んだ方がよい。少なくとも交通が全て利便性の良いところにすべき。
- 車に乗らない子供や老人は、どうやって図書館へ通うのか。交通手段があったとしても、遠方から多くの交通費を使って1日ばかりで行くのならば本を取り寄せた方がよほど良いだろう。

ウ 交通量、安全確保への懸念

- エリアの検討について、交通量があるなかで交通安全が保たれるのか疑問がある。お年寄りが怖くて行けないという懸念がある。
- 95台の駐車場を確保することだが、そこに子連れのお母さんや子どもたちが来た場合に、交通事故や交通量のことなどで何かトラブルにならないかということが心配

(5) 管理運営に係る意見

ア 望ましい運営手法

- 図書館に指定管理はなじまないと思う。確かにサービス向上するかもしれないが、それを上回るデメリットがあると思う。それ以上に私が危惧するのは、図書館・子育て支援施設も都市拠点施設として、まちづくりの中心をしようとしている。京丹後市が理念をもって、市の人が運営していかなければ、人も育たないし、まちづくりの理念も活かされないということになると思う。